

浜岡原発の廃炉を求めて 静岡地本の集会に参加！



7月1日、静岡市において静岡地本・同OB会の主催により「浜岡原発停止から廃炉へ7・1静岡集会」が開催されました。

分会からも代表が参加し原発の危険性を感じるものとなりました。

冒頭、主催者であるOB会鍋島会長の開会の挨拶と、静岡地本山本委員長の挨拶では、



東日本の震災で被災された方への思いと、事故を起こした福島第一原発の厳しい労働条件の中で修復作業にあっている労働者への思いを語られました。また、これまで原発の危険性を訴えてきた私たちの主張を改めて確認することと、現在停止している浜岡原発の廃炉を求めていくための主旨の挨拶がありました。



荻野所長

その後、記録映像『サクリファイス』を視聴し、原発事故と、チェルノブイリ原発事故処理作業にあたった作業員や家族の被爆の実態の恐ろしさが放映されました。当時は、作業にあたり国から功績をたたえられましたが、放射能の危険性を全て知らされていた分だけでなく生命の代償にいたった労働者としての怒りを感じるものとなりました。

特別講演で、荻野晃也氏（電磁波環境研究所所長、元京都大学工学部講師）より、福島第一原発事故が起きる前から訴えてこられた放射能被爆問題と子供たちの未来を残すために今、私たちが出来ることなどの講演を受けました。

このような中で、JR東海葛西会長は、新聞紙上で原発を推進する主張を行いました。私たちはこのような発言を認めるわけにはいきません。東海道新幹線の近辺にあり、高い確率で想定されている東海地震の発生場所にある浜岡原発は停止よりも廃炉することが最も必要ではないでしょうか。



原発停止を訴えるピンバッジ